

区の評価及び意見(区役所地域担当)

【浪速区】 (受託者:株式会社 地域環境計画研究所)

取組実績の評価(1)

項目		ア 地域への支援実績に対する評価	イ 支援の有効性に対する評価	ウ 課題分析と改善策等に対する評価
事業の実施状況	(1)「Ⅰ 地域課題への取組」にかかる支援の実施状況	まちづくりセンターホームページの立ち上げ、研究会浪速区ラボの開催、情報誌浪速区ラボの発行、を計画通り実施できている。	ホームページ、浪速区ラボについては、内容に関する感想を地域からもらえたりしており、一定の役割を果たしている。浪速区ラボについては、参加者が少ないケースもあるが、テーマごとの意見交換ができる場として有効である。	それぞれ内容を充実させ、継続して実施することが必要である。浪速区ラボについては、参加者の増加に努められたい。
	(2)「Ⅱ つながりの拡充」にかかる支援の実施状況	マンション住民へのアプローチなど、積極的に実行されている。	これまで地域活動に関わりの薄い層への情報発信、地域活動に意欲のある住民・管理人を発掘することができ、効果を発揮している。 地域公共人材の活用については、地域ニーズがないことから、苦慮している。	アンケート分析結果を活用した支援メニューを検討し、マンション住民と地活協の接点を図るなど、つながりを広げていただきたい。
	(3)「Ⅲ 組織運営」にかかる支援の実施状況	適正な組織運営、会計事務の適正な執行は、ルールづくり・遵守が実現されている。 広報についても、地域により状況は異なるが、紙媒体の広報だけではなくブログの立ち上げも進むなど、着実に進捗している。	組織運営や会計処理にかかる資料作成などのノウハウを活かし、適切なアドバイスを行えている。ブログの作成も取り組みやすいツールやノウハウの提供により効果を発揮できている。	現在の役員、運営委員で取り組めているが、一部の人への業務が過重になったり、新たな担い手の発掘に苦慮している状況もあり、これまでの取り組みが後退しないよう、継続したフォローが必要である。
	(4)「Ⅳ 区独自取組」にかかる支援の実施状況 (区が「自律的運営に向けた地域活動協議会の取組(イメージ)」において設定したもの)	検討段階であるが、交流促進となる事業を企画している。	幅広い世代が参加しやすい内容を企画されている。	実施後も内容を検証し、次の展開へ活用されたい。

取組実績の評価(2)

項目		ア 地域への支援実績に対する評価	イ 支援の有効性に対する評価	ウ 課題分析と改善策等に対する評価
事業の実施体制	(1) 自由提案による地域支援の実施状況 (企画提案書(事業計画書)等で受託者が提案したもの)	計画通り実行し、課題毎にテーマ設定するなどし、多様なアプローチを図れている。	浪速区ラボなどの実施により、情報交換や意見交換が図られ、今後の活動へ活かすことができる内容となった。	実態調査の結果や研究会での意見など、今回の取組みで終わらせることなく、マンション住民と地域とをつなぐ手法など今後の地域活動への展開を検討、実行していただきたい。
	(2-1) スーパーバイザー、アドバイザー及び地域まちづくり支援員の体制	地域からの相談などに迅速、柔軟に対応し、適切な支援体制をとっている。	自立を支援する機能、新たな取組みを誘発する機能が発揮できている。	地域ごとに求められる支援が違うので、柔軟な支援を継続されたい。
	(2-2) フォロー(バックアップ)体制等	区役所や他区のまちづくりセンターなどとの情報共有や、支援員を地域ごとに担当者と副担当者の2名体制にすることなどで、柔軟、円滑な体制となっている。	個別の案件などを迅速に情報共有することで、効率的に適切な支援が実現できている。	副担当制を積極的に活用することで、情報共有を深め、支援員のスキルアップにもつなげられたい。
	(3) 区のマネジメントに対応した取組	地域活動にかかわりの少ないマンション住民に対しても、防災啓発を実施したいという区の意向を受け、マンション住民への防災意識についてのアンケートを実施することができた。また、区政会議や区民まつりなどの区関連事業へ参加することで、地域住民の声を聞くなどし、課題把握に努めている。	マンション住民へのアンケートについては、回収率は少なかったものの、これまで関わりのなかったマンション住民へアプローチすることができた。区民まつり、区民文化祭などに参加し、区内の各種団体と連携し、地活協の認知度向上などをはかることができた。	マンション住民へのアンケート結果を分析し、防災などをテーマとした地域とのつながりづくりにむけた取組みを期待する。 これ迄以上に積極的に区政会議、区関連事業などに参加し、地活協の活動支援につなげてもらいたい。

取組効果の評価

項目		ア 取組効果に対する評価	イ 問題点の要因分析に対する評価	ウ 今後の改善策等に対する評価
目標等の達成状況	(1) アンケート調査 ・地域が一体となって運営されている:50%以上(区毎に設定) ・適切であると感じている:50%以上 ・自律的な地域運営に取り組んでいる:50%以上	・一体となっている 81.7% ・活動の役に立った 88.7% ・自立的な運営に取り組んでいる 76.0% それぞれ目標設定を上回っている。	日常的に比重のかかる運営支援や会計支援に関してのニーズや実感が高く、全体の評価につながっている。担い手の拡充や他活動主体との連携など、評価の低い支援内容は、短期間で効果を発揮するのが難しいと考えられる。	支援内容により、地域が望んでいないケースや、必要性を感じていないケースもあるので、地域ごとのニーズに合わせた支援を行うことで、効果を発揮されたい。
	(2-1)「Ⅰ 地域課題への取組」達成状況	概ね着実な進捗を図れているが、地域資源の活用や法人格の取得は、地域のニーズが低いことから苦慮している。	これまでの活動への自負や、新たな事業に対する負担感などから、必要性を感じないケースが多い。それらを払拭する支援、仕掛けが必要である。	これまで蓄積してきた地域課題、ニーズを地域ごとに分析し、その地域にあわした活動や事業展開へつなげてもらいたい。
	(2-2)「Ⅱ つながりの拡充」の達成状況	概ね着実な進捗を図れているが、新たな担い手の発掘は、短期間では難しい状況。地域公共人材は地域のニーズが低いことから苦慮している。	新たな参加者や参加団体への不安感など、現状での活動に満足しているケースも多い。それらを払拭する支援、仕掛けが必要である。	より細かくニーズを拾い上げ、その地域にあわした活動や事業展開へつなげてもらいたい。
	(2-3)「Ⅲ 組織運営」の達成状況	概ね着実な進捗を図れおり、支援の効果は表れている。	広報に関しては地域によって習熟度の差があったりし、紙媒体の発行頻度や、ブログの更新頻度に差が生じている。広報担当者個人の業務となっており、丁寧なフォローが継続的に必要。	会計や広報など継続的に取り組めるように、個々のスキルに合わせた支援、担当者の過重な負担とならないような支援が必要。
	(2-4)「Ⅳ 区独自取組」の達成状況			
(3) その他の効果のあった内容		事業の実施体制を組織化し、役割分担を明確にすることで効率的な運営が図られている。	これまでの手法を当然と認識される担い手が多い中で、効率的な改善を提案したことで、支援の効果が発揮できている。	有効な改善事例を他事業、他地域にも展開されたい。

総合評価

総合評価Ⅰ	(1) 地域課題等の把握・分析・整理	地域活動協議会には、運営委員会への出席や事業担当者などへのヒアリングを行い、又、浪速区の特徴である共同住宅に対しては、住宅形態の把握からはじめ、分譲マンションにターゲットを絞り、アンケート調査を行っている。さらに区政会議や区民まつりにも参加するなどし、多様な手法で地域課題の把握に取り組んでいる。
	(2) 目標(支援策)の明確化とそこに向けた戦略・シナリオの策定	画一的な支援にとどまるのではなく、地域ごとのニーズや成熟度に応じた支援が実行されている。
	(3) 区のマネジメントに合った取組	区の特性を踏まえたうえでのマンション住民へのアプローチや、防災に関する関心が高い区民であることも踏まえたアンケート内容など、区役所との情報共有により連携して取り組んでいる。また、区民まつりなどにも積極的に参加し、区内各種団体との連携をはかり、地活協の認知度向上をはじめ、活動充実にむけて取り組んでいる。
↓		
総合評価Ⅱ	総合評価(全体)	地域活動協議会への、運営支援、会計支援は定着しつつ、広報支援も着実に成果を上げており、まちづくりセンターに関するアンケートでも「今後も総合的な支援窓口が必要」との回答が73%となっており、地域からの期待の表れでもある。又、これまでなかなか接点のなかったマンションへのアプローチも、新しい取組みであり、管理会社、管理組合への説明などに苦慮しつつも、一定の調査結果を得られ、あらたなニーズ把握という点で評価できるところである。今後は、これ迄以上に地域ごとのニーズにあわせた支援と、地域とマンション住民をはじめこれまで地域と関わり少なかった住民のニーズをつなげらるような取組みを進めてもらいたい。